

## 日米の被災地交流に向けて



公開フォーラムのお知らせ

### 災害に学ぶ ニューオーリンズと三宅島

参加者  
募集中

2009年4月18日(土)

開場 13:30開始 14:00～17:00

明治大学リハビリタワー リハビリホール

主催：明治大学都市政策フォーラム  
協力：フォード財団 ジャパンソサエティ  
東京災害ボランティアネットワーク



東京災害ボランティアネットワーク(以下：東災ボ)の仲間たちとは2007年、2008年と2年続けてハリケーン「カトリーナ」の被災地であるニューオーリンズを訪問しました。そしてニューオーリンズで活動する多くの市民活動団体の人たちと交流を行なってきました。そして2009年4月には、いよいよ彼らが東京を訪問します。

アシェ芸術文化センターのキャロル・ベベル、ホームレス支援のロザンヌ・ハガティとマーサ・ケゲル、マーケットアンブレラのリチャード・マッカーシーなどニューオーリンズ訪問団にとっては懐かしい人たちが東京の水害対策現場を訪ねるなど、市民との交流を予定しています。

4月18日(土)には公開シンポジウムを開催し、19日(日)以降はグループに分かれて、東災ボの仲間たちの活動現場を訪ねて交流します。

日本では市民活動が年々、力をつけてきました。三宅島噴火災害のときも、避難生活中の「ふれあい集会」の開催や被災者に対する訪問活動、帰島の際のお手伝いなどで、東災ボを中心とする市民の活動が大いに力を発揮しました。行政ではできない、一人一人の生活と気持ちに密着した市民活動は、被災者の支援活動にとって欠かせない重要な戦力となりました。

ニューオーリンズでは、学校やコミュニティの再建、公営住宅の再建、低所得者やホームレス用の賃貸住宅プロジェクトなども民間の市民団体が生活指導と合わせて行っています。災害のときには、もともとその社会がもっている弱さが露呈します。でも、そこから立ち直ると、前よりも地域社会がよくなり、防災力が強くなります。互いに災害から学びあうことはとても大切です。この機会に東災ボの皆さんとの熱い議論を期待したいと思います。(青山)

公開フォーラム

### 災害に学ぶ～ニューオーリンズと三宅島

日時：2009年4月18日(土) 14:00

場所：明治大学アカデミーコモン2階

参加費：無料

詳細：東災ボHPをご覧ください

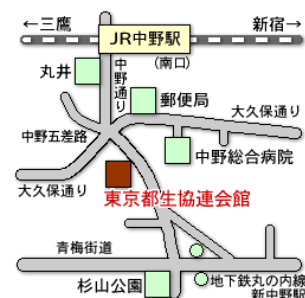
<http://www.tosaibo.net/>

東京災害ボランティアネットワーク事務局

〒164-0011 中野区中央 5-41-18 東京都生協連会館 3階

tel:03-3380-1614 fax:03-3380-1615

E-mail:office@tosaibo.net



# 東災ボの講座と研修一

## ◆なかなかどうして難しい

防災・減災をテーマにした講座・研修の組み立てはなかなかどうして難しい。講座・研修を企画している方々から相談を受けている中で感じることです。

これまでの災害対策というと、市区行政が中心となり、市民は地域や会社などでおこなう防災訓練(避難訓練)が主流でした。しかし、昨今の頻発する様々な災害が、それだけでは家族・地域・会社を守れないことを教えてくれています。

行政機関は、国、県、市区それぞれで、これまで以上の対策を検討し、さらに自助・共助の重要性を説き、行政機関だけに頼らない必要性を説いています。もちろん、企業や各種社会団体、そして市民もそのことに気づき、様々な防災・減災活動に取り組み始めています。

その一つが防災・減災をテーマにした講座・研修の取り組みです。講座・研修によって「災害を知り、イメージする→災害時の課題に気づき、共有する→課題の対策を考え、実施する」という流れを生み出そうということです。

こう書くと、何だか簡単な気がしますが、実際に講座・研修を実施しようと思うとなかなか上手くいきません。

## ◆災害をイメージする

まず、「災害を知り、イメージする」といっても、どんな災害を知ることが有効なのか、また被災するイメージを持つことができるかといった問題があります。特に、自分(自分たち)が被災するというイメージを持つことはとても重要ですが、それまでイメージしたことがない場合が多く、イメージできないケースすらあります。

## ◆課題を共有する

「災害時の課題に気づき、共有する」はさらに困難です。災害時の課題は、これまでの過去の災害を知ることによって気づくことはできますが、その課題を自分(自分たち)に置き換えて考えた場合、その課題は自身の環境(家族・仕事・年齢・性別・・・)によって大きく違うので、共有することはとても難しいといわざるを得ません。

## ◆対策を実施する

「課題の対策を考え、実施する」に至っては、講座・研修の中では実現不可能かもしれないとすら感じています。課題の対策は多くの方々の知恵と経験があれば見出せるかもしれませんが、実施するとなると、さらに多くの方々の具体的な協力がなければ解決しない場合が多く、それは講座や研修の中で実践するというよりも、地域や会社・団体内で取り組

むべきものがほとんどです。

## ◆講座・研修は意味がない!?

だからといって、講座・研修に意味がないかということ、「否!!」です。防災・減災をテーマにした講座・研修に意味がないとは思いません。むしろ大いなる可能性(必要性)があるのではないのでしょうか。

東災ボがこれまで手がけてきた講座・研修で大切にしてきたことは、災害を通じて、「人のいのちとくらしの大切さに共に気づくこと」「その日に向けて少しずつ共に備えていくこと」、この2点です。そして、できることなら「役割や立場や個性の違う方々と共に気づくこと」です。

講座・研修を実施すれば全てが解決するわけでは決してありません。講座や研修を通して、同じように防災・減災を考える仲間と出会い、共に歩める仲間と出会う「良い場」を作っていく。そう考えて講座・研修を実施しています。課題を共有することや、具体的な対策は、その「良い場」を経ることではしか実現できないのではないかとすら考えています。

## ◆「良い場」作り

防災・減災をテーマにした講座・研修の組み立てはなかなかどうして難しい。しかし、それがなければ「良い場」も生まれられないかもしれない。そう考えると、難しいけども試行錯誤しながら実施していく意味があるはずだ。

私たち東京災害ボランティアネットワークは、そんな「良い場」作りを多くの方々とこれからも作っていきたくと思っています。防災・減災をテーマにした講座・研修を考えておられる方は、是非ご一緒しましょう。いつでもお待ちしております。(福田)



写真上：研修が終わった後の懇親会の様子。講座・研修で出会った仲間同士が懇親できる機会も重要

## コラム<TOSAIBO TIMES 編集長ハイバラのお言葉>

<窓>

先日、府中から国立に引っ越しました。引越しには東災ボの上原御大、福田君、長谷川さん、生協の仲間が手伝いに来てくれ、「友愛(賀川豊彦の著作の中に出てくる言葉)」に感涙しました。

今度の家は集合住宅の5階で、窓の上は空です。空をこんなに身近に感じたことはなく、休日は空を見る時間が増えました。向かい側にも同じような棟があり、同じような窓がずらりと並んでいます。平凡ですが窓の中に一人ひとりの生活があり、喜びがあり悲しみがあるのだろうと、これも飽くことなくカーテンで隠された窓を見えています。

窓と言えば、毎日パソコンの窓(ウインドウズ)をあけては閉じ、閉じては開けて文字を打ち込んでいます。時には10個近くの窓を開け縮小してバーに置き、又開いては閉じ、一体何をやっているのだろうと思う時があります。

娘が中学生の頃、休みの日もパソコンを打って仕事をしている私のところへ、その日の朝日歌壇に載ったうたを書き写してもってきました。

「ここに在るちいさき吾を光らせる 言葉を捜す液晶の海」

私は言葉の力を軽んじていると痛感したことを覚えています。そして今も。

(ハイバラ)



## ◆私自身の気づきにも◆

2009年2月14日(土) バレンタインデー。スカッと晴れた空と初夏を思わせるような汗ばむ陽気、『防災まち歩き』には気持ちがいいけどチョット暑過ぎたかな？

COOP 災害ボランティアネットワークのジャンパーを着ていただいた各グループリーダーと記録係さんには、更に暑い思いをさせてしまい少々お気の毒ではありました。

私が同行したのはコースA。「中野総合病院～桃園地域センター～天祖神社～橋場公会堂～新中野町会会館～金光教教会～中央公園～生協連会館」という道筋です。道中、梅にミモザに木瓜に・・・とちょっとしたお花見コースでもありました。

ご参加の皆さんは、公道とは思えないほど狭い道(路地ともいえないくらいの細道)を通ったり、ポイント地点では立ち止まって小ディスカッションをしたりと、地図のヒント写真から道を探して消火器・井戸・消火水栓・防災倉庫等を目敏く見つけたり、地元の方とお話をしたり・・・と、積極的に「まち」を視ておられました。

皆さん充実のまち歩きだったようで、発表された地図の書き込みも班毎の個性が表れて、楽しい気づきとなったのではないのでしょうか。私自身も大きな気づきを得ることができました。

(日赤東京都支部救護ボランティア 筒井)

## ◆自分の足元から!!◆

「頭だけでなく、体も使って災害をイメージする」。これが座学では決して体験できない防災まち歩きの特徴だと思います。

初めて歩く中野の町は道が狭いだけでなく、非常に入り組んでいました。私も住民も普段からで

きるだけ災害時の状況に近い環境を作り出して、頭と体のトレーニングを行う必要があると思いました。そうしなければ、いざという時に冷静さを保ちながらベストな避難・救援方法を、即座に見出すことは難しいのではないかと強く感じました。

今回のプログラムは中野というほとんど土地勘の無い場所で行ったため、私も参加者の方々も地図上で現在地と目的地を確認することに必死になってしまった気がします。しかしよく考えてみると、私も自分の近所についてそれほど理解しておらず、災害が起きた際はパニックに陥ってしまうのではないかと思います。



写真左・中：防災まち歩きや防災まち歩きマップ作りなど、体と頭を動かし、かつ楽しみながら気づけるプログラムを目指しています  
写真右：時には受講生の方々が車座になってそれぞれ意見交換ができるようにプログラムを作っています

「まずは、自分の足元から」、と強く感じた一日でした。

(SVA 薄木)

## ◆日頃からイメージを◆

2009年2月7日(土)に台東区災害ボランティア養成講座のお手伝いに行ってきました。

実は、私はこの講座のお手伝いに、一昨年、昨年と参加させていただいています。つまり、今年で3回目。過去2回、お手伝いさせていただいたプログラムは「防災のまち歩き」、今回は「災害ボランティア疑似体験訓練」です。

このプログラムは、被災者・被災地をイメージしながら、災害ボランティア活動の諸課題について解決策を模索するというもの。もちろん、その場で良いアイデアが出ないことも考えられます。災害ボランティア活動の中でどんな課題が発生するのかを机上で疑似体験し、日常の活動につなげるのが最終的な目標です。

下記のような、これまでの災害ボランティア活動の中で実際に直面した8つの課題に対して、3つのグループで討議していきます。

- ① 30人のニーズにボランティアが80人集まったら。
- ② 地元の飲食店から「開店するので炊き出し中止して欲しい」と言われたら。
- ③ 大根5000本を送る申し出があり既にトラックが向かっているが配布しきれそうにない。
- ④ 屋根のブルーシート張りという危険を伴う作業を要請されたら。

受講者からは、「善意を生かす最大限の努力はすべきでは」「何があっても被災者の立場に立って考

えるべきでは」「時には支援を断ることも大事なのは」「心を込めて話せば(断る理由も)分かってもらえる」など沢山の意見が出され熱い討議が交わされました。

被災地はもとより、災害ボランティア活動をおこなう上では、様々な問題が発生し、直ぐに判断しなければならないことが沢山あると思います。

日頃から被災現場のことをイメージして自分の考えを整理しておくと同時に、自分は何をすべきかを考えておく必要があると思いました。

(連合東京ボランティアサポートセンター 熊田)

# 前東京YMCA総主事 新井さんからのメッセージ 東災ボに期待します！

東京災害ボランティアネットワークの構成員のひとりとして、またネットワークを組織する構成団体の責任者として、いわゆる「東災ボ」に関わることでできた喜びを心から感謝しています。

今般、(財)東京YMCAの総主事(常務理事)としての任を終え、同時に「東災ボ」の役員を退任させていただくこととなりましたが、役員の一ひとりとして関わった在任中の数々のチャレンジは、私の人生にとって大変意義深いことでありました。「弱い人々の隣り人としての働き」「公正、そして平和な社会作り」を私の人生の役割として認識し、具体的に行動をしてきたつもりですが、「東災ボ」の活動が、実は災害等によって「弱い立場に置かれた人々」と共に生きるための具体的な活動であるということで、私の人生の役割と近いものであったということです。

「三宅島」「帰宅困難者対応訓練」「ニューオーリンズ訪問」。この言葉は私たちにとっても忘れることのできないものです。「私たちがいつそのようなことになってもおかしくない」ことを知り、「課題」を共有し、立場や目的は異なるが、

「必要な人々・組織・力」を結集し、「一市民」として問題を解決しようとしてきたことを覚えておきたいものです。これまで行ってきた活動と、これからもさらに前進しようとしている「ゆるやかな連合体」が東京災害ボランティアネットワークであることを思う時、一面ではあると思いますが、不安を抱える人々に「希望の灯」をかかげることができると考えます。

「東災ボ」に関わる私たちの「顔の見える関係」が生み出すものは、理想的な市民社会を創造するものだとして認識しています。

ご指導下さった役員の方、事務局の皆様への心からの感謝とともに、皆の思いがひとつとなって今後さらなる良き働きができますよう期待しています。(東京YMCA 新井 廣和)



写真左：前東京YMCA総主事 新井さん

## 皆さんへのお知らせ

### 東京災害ボランティアネットワーク 2009年度総会のお知らせ

新しい年度(2009年度)となり、毎年恒例の5月の総会が近づいてきました。今年度は、5月30日に東災ボ役員団体でもある東京YMCAで開催いたします。

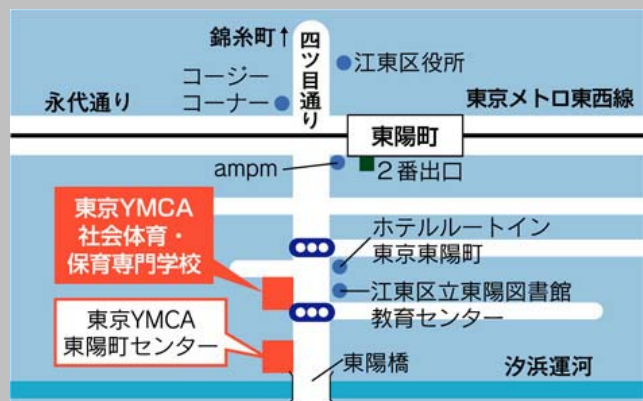
参加団体の皆さまには、改めて総会のご案内をさせていただきます。是非ご出席ください。

#### 東京災害ボランティアネットワーク 2009年度総会

日時：2009年5月30日(土) 13:30~15:00

場所：東京YMCA東陽町センター

内容：2008年度活動報告/2008年度財政報告  
2009年度活動計画/2009年度予算案 など



東京都江東区東陽2-2-20  
地下鉄東西線「東陽町駅」徒歩5分

## 東京災害ボランティアネットワークとは？

1995年の阪神・淡路大震災を契機に、1998年1月に設立されたボランティアネットワーク。災害救援活動や防災・減災活動、ボランティア団体やNPO団体に限らず、様々な形で様々な課題に向かって活動している団体が、災害前に「顔の見える関係」を構築していくことを目的としている。構成されている団体は、ボランティア団体・NPO団体をはじめ、労働団体、消費者団体、社会福祉団体、海外支援NGO、企業と多岐にわたる。

これまで1998年福島豪雨災害や2000年三宅島噴火災害、2004年新潟水害、新潟県中越地震、2005年三宅島帰島支援など、様々な被災地で被災地支援活動・被災者支援活動を展開。

また、各被災地で気づかされたことを東京での防災・減災活動に生かし、都道府県行政、市区町村行政、社会福祉協議会、企業、そして地域の学校・町会などの地域団体と共に、災害といのちとくらしを想像して、考えて、実践していく小さな「気づき」の取り組みを実施している。

2008年7月現在80の団体が参加。

## 編集後記

3月は卒業式・企業の決算・人事異動・転勤・引越、何かと慌ただしい年度末。設立10周年となった東京災害ボランティアネットワークでも年度末を迎えています。

さて、私の年度末、昨年末にやり残した部屋の片付けをして、まもなくシーズン終了となるスキーに行ってきました。今シーズンは最初で最後のスキー。久しぶりに一泊二日の日程、天気は快晴、その上、ゲレンデはガラガラ。慌ただしい日々を過ごす方たちには申し訳ないのんびりした日を過ごしました。腕前(足前)はともかく、颯爽と思う存分滑って、楽しみにしていた温泉へ。入り口のドアを開けて足元の下足箱を確認。顔を上げると目に入って来たのは、なんと大きな背中。まずい！慌てて戻ろうとしたものの、あ〜、男の人が入って来た。ごめんなさい！間違えました。ドアを開けると脱衣場と浴槽が一体になった外湯温泉場。のんびりした由の気の緩み？それとも、生来のおっちょこちよいが出た？

今年は寒い冬から開放された草木の芽が出るのも早かったようです。部屋の胡蝶蘭の蕾も膨らんできました。例年にもまして桜が早く咲くそうです。きれいな花を見る楽しみは喜びの一つです。昨年世界で大きな災害がありました。日々の生活の中で、生きていくために大事なことは少ないと思いますが、地面の中にしっかり根を張って成長する草木は勇気と希望を与えてくれます。新年度はひとつでも災害の少なくなることを念じて。まずは、年度末決算に取り組みます。(I・A)